vinetur

豪州、ワイン・シードルのセラードア約200カ所に助成

世界的なワイン供給過剰が続くなか、地域の生産者が運営するセラードアの改修と直販を支援する助成制度

2026年11月13日（金）



豪州は11月13日（金）、国内のワイン・シードルのセラードア約200カ所に助成金を交付すると発表した。地域社会で観光や直販、事業運営を改善することが狙いだ。

助成金は、主要なワイン産地にある生産者運営の観光・販売施設に交付される。対象には、南オーストラリア州クレア・バレーのPaulett Wines、タスマニア州リッチモンドのPooley Wines、クイーンズランド州グラナイト・ベルトのSymphony Hill Wines、西オーストラリア州カバシャムのSandalford Wines、ニューサウスウェールズ州ハンター・バレーのHorner Wines、ビクトリア州ラザグレンのPfeiffer Winesなどが含まれる。

助成金は、ワイン・シードル生産者を支援する「Wine Tourism and Cellar Door」プログラムを通じて交付される。施設の改修や日々の業務の強化、従業員のスキル向上を後押しするものだ。農業省によると、ワイン産地への来訪者を増やしながら、地域の雇用や農村部の事業を支えることを目的としている。

豪州では、セラードアはワイン取引の中核を担っている。試飲施設やホスピタリティ施設、消費者への直接販売拠点として機能する。多くの生産者、特に地域の小規模ワイナリーにとって、卸売りより高い利益率でボトルを販売し、食事やイベント、宿泊を軸に観光収入を得る手段となっている。世界的なワイン市場で供給過剰が続き、価格に下押し圧力がかかるなか、従来の流通以外に収入源を広げることは、特に重要となり得る。

連邦政府は、セラードアが来訪者とブドウ栽培者やワイン生産者を結び付け、周辺の飲食、小売り、サービス業の維持にも役立つとして、より広い経済的役割を担っていると説明した。農業省によると、豪州のブドウ栽培、ワイン醸造、ワインツーリズム産業は国内経済にA $51.3 billionを寄与し、20万人を超える雇用を支えている。

農業・漁業・林業相のジュリー・コリンズ氏は、今回の投資は生産者の事業基盤を強化し、来訪者の体験を向上させ、地域社会の雇用を支えることを目的としていると述べた。また、世界的な供給過剰など、ワイン業界は依然として厳しい市場環境に直面していると語った。

農業省は発表で今回の助成総額を明らかにしなかったが、今回の交付はブドウ・ワイン産業に対する、より広範な支援策の一環だと説明した。支援策には、対象となるワイン生産者向けのワイン均等化税（Wine Equalisation Tax）還付上限を恒久的にA $50,000引き上げる措置も含まれる。政府によると、この変更により、条件を満たす事業者は年間最大でさらにA $50,000を受け取れる。

政府はさらに、ブドウ・ワイン産業を国家経済と地域の町の双方にとって経済的に重要な産業と位置づけ、同産業の支援にA $110 millionを拠出してきたと述べた。

当局によると、過去の助成先は資金を施設の改修や従業員の増員、商品ラインアップや来訪者向けサービスの拡充に活用した。これまでの実績を踏まえると、今回の助成も、地域観光の強靭性を高め、来訪者への直販比率を引き上げるための顧客向け施設の改修に、より多くのワイナリーやシードル生産者が投資する後押しとなる可能性がある。

飲料業界にとって、この措置の意義は観光にとどまらない可能性がある。ワイナリーやシードルの試飲施設を通じた直販は、競争の激しい輸出・小売りチャネルへの依存を抑えられる。また、来訪者が増えれば、ホスピタリティ体験やプレミアム試飲、地元産品の販売など、関連収入の拡大にもつながる。世界的な需要が軟調で供給過剰が続くなか、こうした収入源は、卸売り環境の悪化に対する一定の緩衝材となる可能性がある。

政府は、生産者や関心のある事業者に対し、業界団体Wine Australiaを通じて「Wine Tourism and Cellar Door Grants Program」の詳細を確認するよう案内した。同団体は、業界向けの複数の連邦政府支援プログラムを運営している。